

別紙-3 廃棄物の排出方法

(1) 使用船舶

使用船舶は工事発注後に施工業者が決定するものであるが、事業規模から一般水底土砂の発生から排出するまでの過程において想定される使用船舶の仕様及び使用台数を表-1に示す。

表-1 使用する船舶

工種	使用船舶	仕様	使用台数	備考
浚渫	バックホウ浚渫船	鋼 D 1.0～2.0m ³	1隻	
運搬・ 排出	底開式土運船	650m ³ 積	1隻	最大規模として想定。
	引船	-	1隻/隻	使用台数は、土運搬船に対しての台数

出典：港湾土木請負工事積算基準（公社）日本港湾協会



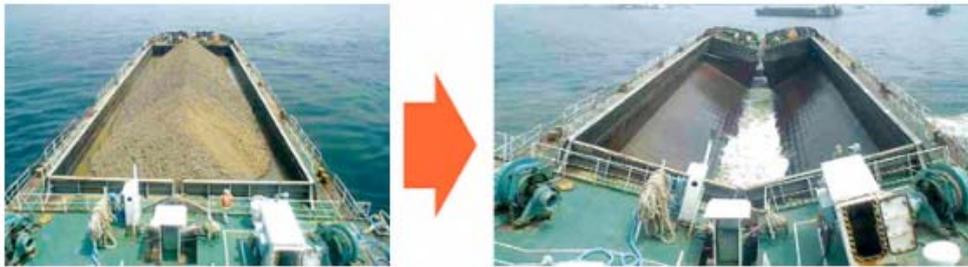
出典：（一社）日本作業船協会ウェブサイトより

写真-1 使用する船舶（バックホウ浚渫船）の例

(2) 排出手順

- ① 別紙-1の図-1に示す浚渫範囲において事前測量を実施し、浚渫範囲を設定する。
- ② 浚渫位置はGPS等で確認しながらバックホウ浚渫船により計画水深まで海底を浚渫する。
- ③ 浚渫土砂はその場で土運船に積み込む。
- ④ 浚渫土砂を規定量積み込み、船内の体積土量を検測及び記録した後、引船にて曳航し相模灘の排出海域に向けて運搬する。
- ⑤ 位置をGPS測位機により確認しながら、排出海域において土運船を停船する。
- ⑥ 土運船に設けられた底扉を開放し、一般水底土砂を一気に海中に排出する。なお、航行中には排出しない。排出に要する時間は約60秒である。

- ⑦ 排出開始時および終了時にGPSにより座標値を読み取り、排出開始・終了位置を廃棄物処理記録簿に記録する。
- ⑧ 排出船は底開式土運船で連続的に投入作業を実施するので排出後の洗浄は行わない。



土運船により土砂を埋立ポイントに運び、船底部を開いて直接投入する

出典：(一社)日本埋立浚渫協会

写真-1 底開式土運船による一般水底土砂の投入方法